

美川中学校だより 1月

mikawa-j01@sc.city.hakusan.ishikawa.jp 平成29年1月24日(火)

No. 26



◇後期学校評価の結果について◇

12月に行ったアンケート結果を基に、これまでの取組の成果と課題を検証し、次年度に向けた改善策等を構築します。今回は7月と12月の比較考察および今後の取組についてご報告致します。

* 数字は全回答数に対してA(よくあてはまる)とB(まあまああてはまる)の合計回答数が占める割合を%で示してあります。
* 判定: 昨年7月数値より5%以上上昇した項目をA、+4%~-5%以内はB、6~10%下降はC、11%以上の下降はDと判定。C、D判定のついた項目は3学期以降の重点課題として対策を練り、対応していきます。
(7月に50%未満の評価については5%アップではなく70%以上達成をAとし、5%下がるごとにB、C、Dと判定する。また90%以上を達成した項目は絶対評価としてA判定とした。)

1. 豊かな心の育成について (思いやりの心を持ち社会の規範や礼儀にかなった行いのできる生徒)

【思いやり】 * 昨年までの「友達に対して・・・」の限定を外しました。	H28.7月	H28.12月	判定
(生徒) 思いやりの心で行動している。	90	91	A
(保護者) 子どもは思いやりの心で行動している。	86	89	B
(教職員) 生徒には思いやりの心が育ってきている。	75	81	A

【規範意識】	H28.7月	H28.12月	判定
(生徒) 社会のルールや学校の規則を守っている。	97	97	A
(保護者) 子どもは社会のルールや学校の規則を守っている。	91	92	A
(教職員) 生徒には規範意識が身につけてきている。	83	88	A

【あいさつ】 美中宣言にもある「笑顔になるあいさつ」に修正	H28.7月	H28.12月	判定
(生徒) 学校や地域家庭で相手も自分も笑顔になるあいさつをしている。	83	82	B
(保護者) 子どもはすすんであいさつする習慣が身につけている。	78	75	B
(教職員) 生徒は笑顔であいさつができるようになってきている。	67	73	A

《分析と今後の取組》

【思いやり】についての評価は前期よりも良くなっています。それは時間経過による人間的な成長も背景にはあると思いますが『美中宣言』にもある「相手に対して心が温まるような言葉かけ」については、〈誰に対しても〉という視点から見るとまだ満足できる状況ではありません。卒業期に向けた生徒会からの提案について、全校生徒でその意義を理解し意識を共有することが大切なポイントとなります。【規範意識】については個別の指導が必要な場合もありますが、学校全体としては生徒の意識は高くなってきたという状況です。毎月の生活目標の達成に向けた取組を通して、状況の検証もふまえて意識の向上を図る努力を継続していきます。【あいさつ】についても教師から見ると、きちんと相手の目を見てあいさつを交わすあるいは返す生徒が増えてきたように感じます。いずれの項目も生徒自らの気づきと人としての成長が必要です。学校は、そのための支援を創意工夫して取り組んでいきます。『教師主導から生徒主体へ』の意識を継続し、日々の授業、生徒会等の特別活動や部活動など、教育活動全体を通して生徒の『自己有用感』を高めることにより、豊かな心を育んでいきたいと考えています。

2. 確かな学力の定着について (自ら学び、深く考え、探究心旺盛な生徒)

【基礎の定着】	H28.7月	H28.12月	判定
(生徒) 朝読書の時間は静かに読書している。	97	93	A
(教職員) 学力調査の結果を基に授業やテストで定着度を確認している。	63	79	A
(教職員) チャレンジシートを年間を通して有効活用している。	58	52	C

【授業づくり】	H28.7月	H28.12月	判定
(生徒) 話し合う活動を通して自分の考えを深めることができた。	84	82	B
(教職員) 学習のゴール、見通しを持たせる工夫をしている。	92	96	A
(教職員) 生徒同士が学び合い関わり合う場面を設定している。	83	96	A

【活用力の向上】	H28.7月	H28.12月	判定
(生徒) 学んだことを文や図などを書いてまとめたり説明したりする。	76	71	B
(教職員) 思考を深める10のポイントを意識した働きかけをしている。	75	96	A

【家庭学習の取組】	1. 2年生70%以上A 3年生80%以上Aとして判定	H28.7月	H28.12月	判定
(1年生)	毎日1時間以上の家庭学習を行っている。	7.7	6.6	B
(2年生)	〃	5.3	4.3	D
(3年生)	〃	5.6	8.6	A
(保護者)	子どもは家庭で毎日学習する習慣が身につけている。	5.0	5.4	B
(教職員)	生徒には家庭学習の習慣が身につけている。	4.3	6.9	B

《分析と今後の取組》

『確かな学力』についての項目は、生徒がどのように感じているかという視点で考えることが大切です。アンケートからは、教師側の授業づくりの工夫や働きかけは前期より良くなっている項目が多いですが、生徒の状況を見ると、話し合いを通して自分の考えを深めることができた生徒は前期より減少、さらに学んだことを文や図などでまとめたり説明することができる生徒も減少しています。教師側のねらいが生徒の学力に反映するように、適用問題の実施による定着度の確認や既習事項を利用して問題を解く取組、課題に対するまとめを、キーワードを使って文字制限をした上で書かせる取組等を創意工夫していきます。【家庭学習の取組】もまだ十分ではありません。強化週間や学習コンテストの継続を通して習慣化を図ることや定期テスト前の生徒自作問題の実施等、定着度を確認する課題に取り組むことを通して、家庭学習のあり方を再度、指導していきます。

3. 健やかな体の育成 (心身共に強くたくましく、明朗快活な生徒)

【規則正しい生活】	H28.7月	H28.12月	判定	
(生徒)	自分の健康に関心を持ち規則正しい生活を身につけている。	8.9	8.9	B
(保護者)	子どもは起床、就寝など規則正しい生活を送っている。	8.2	7.3	C
(保護者)	子どもは毎日朝食をとっている。	9.6	9.6	A
(教職員)	生徒は自己の健康に関心を持ち、規則正しい生活をしている。	8.7	8.5	B

【部活動等の活性化】	H28.7月	H28.12月	判定	
(生徒)	部活動や地域スポーツクラブの活動に積極的に参加している。	9.5	9.4	A
(保護者)	子どもは部活動や地域スポーツクラブの活動に休まず参加。	9.2	9.4	A
(教職員)	生徒は部活動に積極的に取り組んでいる。	9.2	10.0	A

《分析と今後の取組》

【規則正しい生活】については保護者の評価が下がっています。また、3年生が前期肯定的評価より11%減少しています。受験勉強が深夜にまで及んでいることも考えられますが、不規則な時間配分は健康面からも心配です。生活リズムを見直し、学習時間を確保する工夫が必要です。卒業、進学、進級に向け規則正しい生活の奨励について再度指導すると共に、生徒会の委員会活動を充実させ、生徒自身が生活を変えていく意識を高めるよう指導していきたいと思えます。また、前期に指摘をした携帯電話や通信機器によるメールやネットでの弊害について、すでに各家庭でルールづくり等されているでしょうか。生活リズムの見直しには欠かせないポイントとなっている生徒も少なくないと思います。ぜひ再度確認していただきたいと思えます。【部活動の活性化】については、前期同様、高い評価となっており、生徒はよく頑張っていると思えます。各種大会やコンクールでも多くの成果を残してくれました。今後も保護者の皆様との連携を深め、新入生を迎えても良き伝統は引き継いでいってほしいと思えます。

4. 保護者アンケートより

【学校や教師に対して】	H28.7月	H28.12月	判定
学校の教育方針が理解できた。	8.1	7.5	C
交通安全や危険回避の指導を適切に行っている。	8.8	8.3	B
ホームページや学校・学年だよりなどで学校や生徒の様子を伝えている。	8.6	9.1	A
先生は子どもの良いところや努力していることを適切に評価してくれる。	9.0	8.3	C
子どもに関する不安や相談に対し、適切に対応してくれる。	8.3	7.6	C
先生は生徒の間違った行動に対し、適切に対応してくれる。	8.7	8.0	C

【我が子に対して】	H28.7月	H28.12月	判定
子どもと将来の目標や生き方、進路のことなどについて話すことがある。	8.1	8.0	B
子どもは学校に行くのが楽しいと言っている。	8.6	8.3	B

子どもへの教師側の取組に対する保護者評価が下がったことは、学校として、信頼回復に向けた努力をしなければならない反省すべき課題です。生徒の気持ちに寄り添うこと、生徒に向き合う時間を確保すること、何か問題が起きたときには迅速、丁寧に対応すること、問題行動には毅然と対応し、頑張っていることには正当な評価をすること・・・当たり前のことを職員一丸となって、きちんと対応していきたいと考えています。

(文責 校長 五天)